

ステップアップ

北 斗 市 立 大 野 中 学 校
研 究 部
第 4 号
2019.10.15

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり

～生徒の学習の成果等を的確に捉える学習評価の充実～」

【めあて】ミニ校内研をふりかえり、自分の授業に取り入れたいことを見つける。

9月校内研修内容

□ミニ校内研の振り返り 授業者 山本先生・平元先生
□新学習指導要領における学習指導の在り方 阿部

	課題について	ルーブリックについて	振り返りについて
A	課題を単元の導入時に示すことで、生徒が課題解決の見通しをもったり、生徒が自らの課題を立てることに役立っている。	ルーブリックは、生徒が学習の見通しをもったり、 <u>生徒が自分の学習状況を把握し、学習の進め方を調整する</u> など、生徒自身も活用できるものになっている。	生徒が自分の学習状況を把握し、 <u>学習の進め方について調整・試行錯誤ができるような場面</u> を授業の中に作っている。
B	課題を単元の導入時に示すことで、生徒は課題解決のための <u>必要感</u> をもって知識や技術習得の授業に取り組んでいる。	モデリングや作品提示を通して、 <u>評価の具体的な姿</u> が生徒に伝わっている。 <u>(教師と生徒が共有している状態)</u>	文型の提示や字数・用語の指定など思考の枠組みを与えることで、 <u>何をどのように、どのくらい書いたらよいか</u> を教師と生徒が共有している。
C	毎時間単発の課題が示され、単元を通した学びのつながりや単元のゴールを生徒が意識できていない。	単元で身に付けることや学ぶこと(単元のゴール)について、生徒が見通しをもった状態で毎時間の授業にと入り組めていない。	生徒が学んだことを振り返ったり、確かめたりする場面が授業の中にある。具体的な指示をせずに書かせてしまい、思考に深まりがない。

《ミニ校内研のふりかえり》

【3年A組 国語科】

(授業者より) 日頃から発表の声の小ささを課題に感じているので、本時は相手に伝わりやすい発表を意識して取り組ませた。

○課題に沿って振り返りができている。これは、導入時にルーブリックに沿って一人一人が自分の課題を設定しているためである。

○生徒がルーブリックで自分の現状を捉えながら、自分の変容を確かめられていた。

○発表が終わった後の相互評価の際、ルーブリックに沿って話ができている。

○個人→グループ→全体というスモールステップで課題の達成に迫ることができていた。

☆今日の授業の場合は、原稿を書いていたことがよく働かなかった。話し言葉でのスピーチの方が表現力を高めることができたのではないかと。

☆発表の技術については、目線の配り方やタイミング、抑揚の付け方などより具体的に細かいアドバイスをしていくことが必要である。

☆全体発表は男子のみになっていたため、女子の発表力に課題があるなら、意図的に女子を入れてもよかった。

【1年B組 社会科】

(授業者より) EU やイギリスが抱えている問題について中学1年生でも理解できるように説明することを心がけた。ワークシートについて、メリット・デメリットを明確にし、対比できるような工夫をする必要があった。

○EU加盟のメリット・デメリットが分かりやすかった。

☆メリットやデメリットについて資料からも読み取り、生徒自身が説明したり書いたりできたよかった。

☆教師と生徒のやり取りに終始していたので、グループワークを取り入れることで、生徒相互の対話も生まれたと思う。

校長先生から

国語科の授業は、今まさに求められている典型的な授業だった。筆者との対話があり、仲間と対話がある対話的な授業と言える。社会科の授業については、4月から現在まで一番社会科教師然としていてよい授業だった。

評価の目的

- ▶ 「何ができるようになったか」の自覚
- ▶ 教師が指導の改善を図るとともに児童生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするため
 - ▶ 「指導と評価の一体化」

課題

- ▶ × 事後評価が多く、学習改善につながらない
- ▶ × 挙手回数、ノートなど性格・行動面の評価に
- ▶ × ペーパーテスト、知識・理解に偏る

新しい学習評価 (全ての教科等で3観点)

知識・技能

思考・判断・
表現

主体的に学
習に取り組
む態度

例として国語科では

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項
(2)情報の扱い方に関する事項
(3)我が国の言語文化に関する事項

A 話すこと・聞くこと
B 書くこと
C 読むこと

該当する指導事項はない

『主体的に学習に取り組む態度』の評価

- ①粘り強い取組を行おうとする側面
 - ・積極的に
 - ・進んで
 - ・粘り強く 等
- ②自らの学習を調整しようとする側面
 - ・学習の見通しをもって
 - ・学習課題に沿って
 - ・今までの学習を想起して 等

『主体的に学習に取り組む態度』の評価

- ▶ ・ノート、ワークシート、レポート等における記述内容
- ▶ ・授業中の発言
- ▶ ・教師による観察
- ▶ ・自己評価、相互評価への取組
- ▶ ・パフォーマンス課題への取組

『知識・技能』の評価

- ▶ 既有知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているか。

ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、概念的な理解を問う問題のバランスに配慮する

- ・パフォーマンス評価
- ・文章による説明
- ・観察や実験
- ・式やグラフで表現

『思考・判断・表現』の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するのに必要な思考力・判断力・表現力を身に付けているか。

ペーパーテストのみならず、パフォーマンス評価により多面的・多角的な評価を

- ・論述やレポートの作成
- ・発表、表現(観察・実験・グラフ・内容解釈図)
- ・グループや学級における話し合い
- ・作品の制作や表現
- ・ポートフォリオの活用
- ・思考判断を問うペーパーテスト

評価の改善

- ▶ ・単元や題材のはじめに説明し、評価について共有
- ▶ ・記録は単元や題材のまとめりに
- ▶ ・評価方法を複数もち、多面的・多角的に
- ▶ ・教師同士で評価の検討

参考文献 学習評価の在り方ハンドブック
児童生徒の学習評価の在り方について
(国立教育政策研究所)